

## 横浜ジュニアヨットクラブにおける指導方針について(指導者講習会より)

平成27年2月15日(日)、東京都港区の東京さめき倶楽部会議室において指導者講習会が開催されました。講師は中川二郎JJYU常務理事。ご自身が代表を務められている「横浜ジュニアヨットクラブ」における長年の経験を踏まえた実践的なお話しに、参加者は熱心にメモを取りながら聞き入っていました。

### [講演内容抜粋]

横浜ジュニアヨットクラブでは、新人・初級・中級・上級の4クラスにそれぞれ1~2人のコーチが指導するようにしています。各クラス共通で実践しているのは、話し合い~文章化~実行~修正の過程を繰り返すことです。また各クラス別のガイドライン(取り組む姿勢)や海上陸上での技術(知識)も段階的に身につけて行くように工夫しています。具体的には、子どもたちの成長を記録するノート子ども自身が作成しています。例えば、事前の天候調査と実際の内容や、フィジカルトレーニングや練習の内容そしてコーチからのアドバイス、艇のチューニングと乗艇位置などについて記録しています。記入内容はコーチや保護者が確認することにしています。またレース時にはコース取りを中心に記録するよう指導しています。このように子どもたちが自分でノートに記録を残すことにより、子ども自身は頭の整理とセーラーとしての進歩を振り返ることができますし、コーチにとっても指導内容が子どもたちにしっかりと伝わっているかを確認することができます。指導者の役割分担については、コーチは主に技術と知識について受け持ち、クラブの代表は取り組む姿勢を中心に子どもたちを導くようにしています。また、技術や知識の習得だけでなく他者への思いやりの心を育むことも重視しており、毎年“グッドマナー賞”を父兄・コーチが投票で選んで表彰しています。クラブ代表者として心がけていることは、指導方法は常に見直し日々改良すること、他のクラブも参考にすること、色々な立場の方の助言を聞くこと、などです。



講師の中川二郎JJYU常務理事

### 公開!!これが記録ノートだ

自艇のチェック欄にはチューニングデータの他に「走りやすかった、風の強弱があって少し難しかった」と走った時の感覚も記入している

天候調査欄には「予報は小潮だったけど大潮みたいに流れが強かった」とある

その他にコーチからの指摘内容が箇条書きで記入されているなど、とてもわかりやすい整理されたノートです

### [講演後の質疑や意見]

中川常務理事のお話の後には活発な質疑や意見交換がおこなわれました。

◎子どもたちの日々の成長に対応するためには、コーチもそれなりの技量が必要である。日本ではコーチの数も不足しているが、何よりも質を高める指導者教育が大切である(安井清JJYU副会長)

◎特に地方クラブの指導者から、指導についての経験や知識が不足しているとの悩みが寄せられる。JJYUとしても指導者育成については力を入れてゆくべきだ。地方のクラブ向けに出張指導者講習などを実施したい(中川JJYU常務理事)

◎ヨットを通じて中海の環境問題への取り組みに活動が広がってきているが、クラブ人数の減少が最大の悩みである(内藤武夫JJYU理事 鳥取県ジュニアヨット協会・安来ジュニアヨットクラブ代表)

Q: 対外試合出場にあたって何らかの基準は設けるべきか?

A: 初級クラスのレースの参加は、レスキュー体制や艇同士の衝突するリスクを勘案して慎重に決めるべき(中川JJYU常務理事)